

家庭科室

本時で目指す授業

家庭実践を振り返り、実体験を根拠として対話することを通して、継続して実践するためのポイントに気付き、生活時間の使い方をより自分の生活に即したものに改善することができる授業。

1 題材名 「生活時間をマネジメント」(A 家族・家庭生活)

2 題材の目標

- 生活時間の有効な使い方について理解することができる。【知識・技能】
- 生活時間の使い方について課題を見付け、家族と協力したり家族と過ごしたりする時間を作るための解決方法を考えることができる。(生活時間の使い方を工夫)【思考・判断・表現】
- 生活時間の使い方についての課題解決に向けて、主体的に取り組み、実践しようとする。【主体的に学習に取り組む態度】

3 目指す子供を育てるために

題材で目指す子供の姿

- ・家族の生活時間を考えながら、家族の一員として自分の生活時間の有効な使い方を工夫している。
- ・実践を振り返り、課題を見付け、改善していくことで、継続した実践につなげようとする。

手立て

- ・振り返りを基にした対話

題材について

- ・家族の一員としての自覚をもち、家庭生活をよりよくするために自ら考え、実践することの楽しさを実感することができる。
- ・学習指導要領A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」との関連を図り、課題を設定し、解決方法を考え、実践し、評価・改善することを通して、継続した実践へとつなぐことができる。
- ・実践後の振り返り場面を設定し、実体験を根拠として対話することで思考を深められるようにする。

題材で育てたい資質・能力

- ・家族に協力したり家族と過ごしたりする時間を増やすことが、家族の楽しい時間を生み出すことにつながるということを理解し、生活時間の有効な使い方を工夫すること。
- ・家族の一員として生活時間を有効に使うことができること。
- ・実践を評価・改善し、生活をよりよくするために継続して実践できる方法を見いだすこと。

子供の実態

- ・家庭科で学んだことを家庭生活で実践している児童が少ない。(6年生)
- ・調理や裁縫への意欲は高い。
- ・生活時間の中に家族に協力している時間が組み込まれている児童は少ない。

主に働かせる見方・考え方 家族や家庭に関する内容を協力・協働、健康・快適・安全の視点で捉え、よりよい家庭生活を営むための生活時間の使い方を考えること。

4 題材計画

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活時間の有効な使い方について理解している。	生活時間の使い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活時間の有効な使い方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活をよりよくしようとしている。

(2) 題材の学習計画

時間	○目標 ・主な学習活動	評価・方法
1	○生活時間の使い方の問題点に気づき、解決方法を考えることを通して、生活時間の有効な使い方について理解することができる。 ・ある家庭における大人と子供の生活時間の使い方について問題点を見付ける。 ・解決方法について対話する。	(知) 発言内容、ワークシート
2	○家族と協力する時間や家族と共に過ごす時間を自分の生活時間に入れ、実践の計画を立てることができる。 ・自分と家族の生活時間を比較し、問題点を見付ける。 ・解決方法について考え、自分の生活時間を工夫する。	(態)(思) 発言内容、ワークシート
家庭実践 「増やそう！家族のハッピータイム」		
3 本 時	○家庭実践の振り返りを基に対話することを通して、継続して実践できるように生活時間の使い方を改善することができる。 ・家庭実践でうまくいった点、うまくいかなかった点を振り返り、改善策を考える。 ・改善策を見合い、対話することを通して、より実践的な改善策を見いだす。	(思) 発言内容、ワークシート
夏休みの家庭実践 「増やそう！家族のハッピータイム」に再挑戦する。		
4	○家庭実践の発表会をし、継続意欲を高めることができる。 ・家庭での実践を発表し合い、分かったことやこれからの生活に生かしたいことをまとめる。	(態) 発言内容、ワークシート

家庭実践の振り返りを基に対話することを通して、継続して実践できるように生活時間の使い方を改善することができる。

【思考・判断・表現】

学習活動 ・予想される児童の発言・思考	教師の関わり ◎具体の評価規準 教師の手立て
1 実践して気付いたことを共有する。 ・朝食作りは、時間がかかって大変だった。毎日続けるのは無理だと思った。 ・平日の8時に、家族との団らんの時間をつくりお茶を入れようとしたが、全員そろわなかった。 2 課題を確認する。 これから続けていけるように、生活時間の使い方を改善しよう。 3 実践したことについて、うまくいった点、うまくいかなかった点を書き出す。 ・夕食後にお米をとぐことは続けられた。 ・朝食作りは、慣れない調理で時間がかかり家族に迷惑がかかった。 ・朝食作りは、寝坊をする日もあり、できないことが多かった。 ・夕方にお父さんと一緒にキャッチボールをしようとしたが、仕事が忙しく、できない日が多かった。 4 改善策を考える。 ・朝食作りの中でも、野菜を切る、卵をゆでるなどの自分にできることをやる。1人ではなく、お母さんと協力して朝食を作る。 ・朝は苦手なので、朝食作りではなく夕食作りに変更する。 ・休日の午前中ならお父さんの時間に余裕がありそうなので、その時間にキャッチボールをする。 ・一緒に過ごす時間を増やすためにキャッチボールの時間を作ったが、お父さんのことを考えると、仕事から帰ってきてから肩もみをした方が喜びそうだ。	・実践が難しかった点を取り上げ、課題につなげる。 ・うまくいかなかった点については、うまくいった点と比較させながら理由を考えさせる。 ・うまくいかなかった点がない児童には、もっと家族が喜ぶために工夫できないかを考えさせる。

5 改善策を見合い、対話する。 ・平日から休日に変更するのはいいと思った。私も家族が忙しくて平日に団らんの時間をとれなかったから休日に団らんの時間をとりたい。 ・毎日続けるために、取り組む時間帯を変えることが大切だ。 ・家族の生活時間を考えて合わせないと、実践は難しい。 ・自由時間を減らすのがいいと思った。休日の昼食作りに思った以上に時間がかかったから、ぼくも自由時間を減らそうと思った。 ・私は自由時間を減らしたくないから、野菜を切るのを自分でやって、お母さんと分担して食事作りをしようと思う。 ・家族で分担して協力し合っていると、時間がかかりすぎず、続けられそう。 ・それだと効率的にできそう。私はだらだら仕事をして時間を無駄にしてしまった。効率的に仕事を進めると、時間に余裕ができ、自由時間もきちんととれる。 ・難しいことではなく、自分にできることをしっかりやることも大切だと思う。簡単な内容の方が続けやすい。 ・時間がかかる内容も、続けていくうちに上手になって短時間でできるようになると思う。そうすれば継続してできそう。 6 対話したことを基に、今後どのように取り組むのかを決める。 ・休日の午後は習い事で忙しいので、午前中に玄関そうじをする。 ・平日はお父さんが忙しくて一緒に食事ができないので、休日の朝に早起きをして朝食と一緒に食べる。 ・朝食作りよりも、簡単な食器の片付けやお米をとぐことを毎日続ける。 ・お弁当作りをお母さんと一緒にやる。慣れてきたら一人でやる。 7 夏休みチャレンジの予告をする。	振り返りを基にした対話 ・対話を通してより実践的な改善策を見いださせる。 ・改善策を書いたワークシートを机上に置き、見合うようにする。 ・実践するために、家族に合わせて実践する時間をずらすなど、時間をつくっていくことが大切であることに気付かせる。 ・自由時間を減らす、早寝早起きをするなどの時間をつくる方法が出てくることが予想されるが、本当に続けてできるのか考えさせる。 ・自分の能力に合った仕事にしたり、家族と協力して行ったりするなど、決めた時間でできるようにすることの必要性に気付かせる。 ◎実践的な生活時間の使い方に改善している。 (ワークシート) ・これからも続けていけるように何に気を付けるかを書いた上で具体的な取組を書かせる。 ・生活時間調べの表を見ながら自分の生活に即して決めるようにする。 ・継続して実践できるようになっているか確認し、家庭実践への見通しをもたせる。 ・夏休みに再チャレンジし、休み明けに報告会をすることを予告する。
--	---

【参考文献】

文部科学省『初等教育資料』9月号,東洋館出版社,2018

筒井恭子『小学校課程の授業づくりと評価』明治図書出版社, 2013

筒井恭子『小学校 新学習指導要領ポイント総整理 家庭』東洋館出版社, 2017

授業実践のまとめ

1 授業の概要

- 1 実践して気付いたことを共有する
- 2 課題を確認する

これからも続けていけるように、生活時間の使い方を改善しよう。

- 3 実践したことについて、うまくいった点、うまくいかなかった点をワークシートに書く
- 4 改善策を考える
- 5 改善策を見合い、対話する

振り返りを基にした対話

T：改善策を書き終わったら、友達のワークシートを見て回り、花丸カードを置きましょう。

T：花丸カードをたくさんもらっていた人は、どんな改善策を書いていましたか。

C：朝のごみ出しは眠くて大変だったので、早く起きて余裕をもつようにした。

T：この改善策に花丸カードを置いた人は、理由を教えてください。

C：ぎりぎりの時間だとばたばたしてできないこともあるから、余裕をもつのがよいと思った。

C：ぼくも朝にする予定だったごみ出しができなかったから、早起きが大切だと思った。そのために早く寝ることも必要だ。

・
・ (略)
・

T：今までのみんなの意見だと、早寝早起きする、自由時間を削るという改善策が多いようですが、本当にできそうですか。できそうな人は手を挙げてください。

(半数は手を挙げた)

T：みんなにとっては、自分の時間も寝る時間も勉強の時間も習い事の時間も大事だと思うけれど、時間内に工夫してやれる方法はないですか。

C：だらだらしないで集中して早く終わらせるとよい。

T：他にはないですか。

C：……

T：20分くらいで設定している人が多かったけれど、みんなが20分で終われる仕事って何でしょう。

C：皿洗い。

C：分からない。

C：洗濯物を干す。

C：やり慣れている仕事ならできそう。

・
・ (略)
・

6 まとめ

T：これからも続けていくために、どんなことが必要でしょう。

C：自分に合った仕事をして、いろいろな仕事も試してみる。

C：家族と協力してやって、短時間でできるようにする。

C：時間を変えたり、やることを変えたりする。

7 対話したことを基に、今後の取組を決める

評価：実践的な生活時間の使い方に改善している。

8 振り返る

2 授業の考察

～ワークシートの記述から～

C1：実践したこと…平日の6時～6時半、団らん

うまくいかなかった点…団らんをする時間に、家族は身支度などをしていて忙しそうだった。

今後の取組…時間を7時～7時20分に変える。家族の時間に自分の時間を合わせる。

C2：実践したこと…休日の14時半～15時、次の日の弁当の準備

うまくいかなかった点…土日は予定が変わりやすく、時間を決めて取り組むのが難しかった。

今後の取組…休日の12時半から皿洗いをする。取り組みやすい時間、仕事を見つけて行うようにする。

C3：実践したこと…休日の16時～16時半、夕食の準備

うまくいかなかった点…材料を切るのに時間がかかり、勉強時間が遅くなり、寝るのも遅くなった。

今後の取組…夕食準備をお母さんと一緒にやる。慣れてきたら自分の分担を増やしていく。

C1は、家族に合わせて時間をずらしている。C2は、取り組みやすい時間と仕事内容に変更している。C3は、家族と協力してやるという自分に合ったやり方になっている。このように、継続して実践するためのポイントに気づき、実践的に生活時間を工夫している児童が多かった。対話の前半では、「家庭の仕事に慣れていないため時間がかかりすぎた」という理由でうまくいかず、「自分の自由時間を減らして仕事の時間を増やす」という改善策を考えていた児童が多かったが、対話を進めていくうちに、自分に合った仕事内容にするなどの時間内に工夫して取り組むことの大切さに気付いていった。しかし、自分に合った仕事内容と考えた時に、仕事内容を減らしたり、簡単で楽なことばかりに取り組もうとしたりした児童もいた。難しいことも続けていくうちに慣れて早くできるようになること、はじめは家族と一緒にやり、徐々に一人でもできるようになっていくことの大切さを押さえる必要があった。また、「家族のために」という視点を意識させ、自分が楽をするのではなく、家族みんなが快適に生活できるようにどうすればよいか考えさせることも必要であった。

3 本実践の成果と課題

(1) 成果

本実践における成果は、家庭実践後の振り返りを基にした対話の有効性が明らかになった点である。対話の際、自分のうまくいかなかった点を基にして、友達の改善策のよさを見いだしていた。家庭実践したからこそ、生活時間の量的な改善だけでは継続して実践していくことは難しいと気付くことができた。継続した実践に向けて、時間内にできるよう質的に改善していこうと考えを深めることにつながった。家庭実践後の振り返りを基にした対話は、より生活に即した方法を見だし、継続した実践につなげるために有効に働くとと言える。

(2) 課題

本実践の課題は、児童にとって必要感が足りなかったという点である。その原因として、家族のためにという意識が薄かったことが考えられる。そのため、生活時間を質的に改善していこうという思いをもつことはできたものの、その方法についての気づきはなかなか見いだされなかった。家族のためにできることについて必要感をもって考えさせるために、綿密に家庭環境などの実態把握をして授業を組み立てる必要があった。また、自分のことは自分でするなどの自分の生活全体を管理することが、よりよい家庭生活につながることをしっかりと押さえる必要があった。自分のことを自分でしっかりとできるからこそ、家族のために何ができるのかを考えられるようになる。さらに、家庭と連携し、家族と児童の双方向的なやりとりを組み入れることも必要であった。そうすることで、家族が自分にしてほしいことや家庭の多様な仕事について知ることができ、多様な気づきが見いだされる。